新潟県報道資料

新潟県

令和8年3月6日
福祉保健部感染症対策・薬務課

新潟県感染症情報　年報（令和7年）をお知らせします

●令和7年（1～12月）における感染状況
感染症法に基づく、令和7年の県内の全数把握感染症全ての届出は、4,515件でした。
類型別届出数の累計は下記のとおりです。（保健所受理日で集計）

●全数把握感染症（令和3年以降に届出があった疾患のみ計上）

感染症の類型、感染症名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
1類感染症					
届出なし	0	0	0	0	0
2類感染症					
結核（患者）	145	108	130	102	99
結核（無症状病原体保有者）	74	63	53	64	57
3類感染症					
腸管出血性大腸菌感染症	27	48	65	43	33
腸チフス	0	1	0	0	0
4類感染症					
E型肝炎	13	6	5	7	9
A型肝炎	0	0	1	2	2
オウム病	0	0	2	0	0
チクングニア熱	0	0	1	0	0
つつが虫病	7	4	6	4	6
デング熱	0	0	1	1	0
日本紅斑熱	0	0	1	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	1
レジオネラ症	48	47	64	58	62
レプトスピラ症	1	0	0	0	0

感染症の類型、感染症名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
5類感染症					
アメーバ赤痢	10	5	2	10	5
ウイルス性肝炎	1	1	3	0	5
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	45	44	53	54	23
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	1	0	1	0	2
急性脳炎	11	2	18	11	8
クロイツフェルト・ヤコブ病	5	4	2	5	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21	23	15	42	23
後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	1	7	7	11	4
ジアルジア症	1	0	1	0	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	2	4	12	13
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	1
侵襲性肺炎球菌感染症	34	24	38	39	43
水痘（入院例）	5	4	8	7	6
梅毒	60	139	122	140	118
播種性クリプトコックス症	3	0	8	3	3
破傷風	3	2	1	1	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
百日咳	36	28	29	127	3,985
風しん	0	0	0	0	0
麻しん	0	0	0	0	0
計	555	562	641	743	4,515

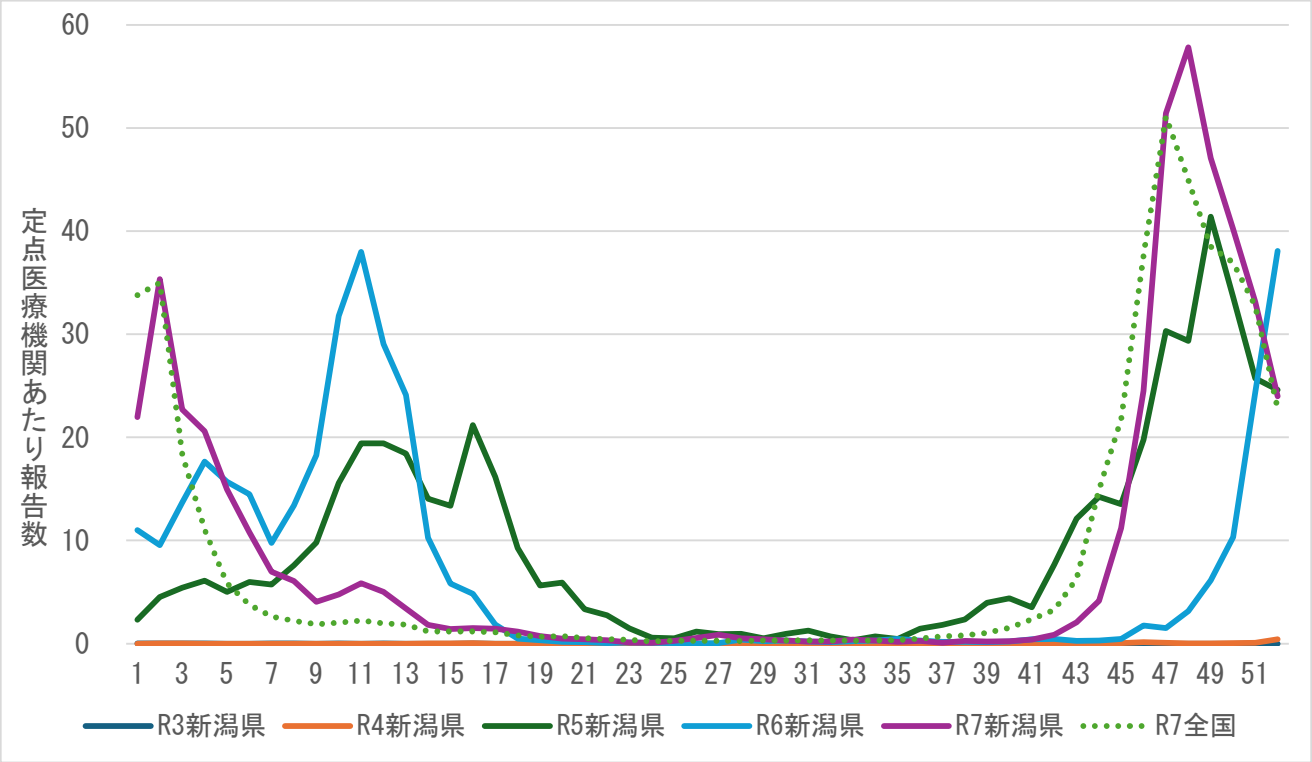
●全数把握感染症の発生状況

・百日咳は、令和7年4月以降流行が続き、多い時には1週当たりの感染者数が170人程度まで推移した。

・令和7年において破傷風、風しん、麻しんの発生ははない。

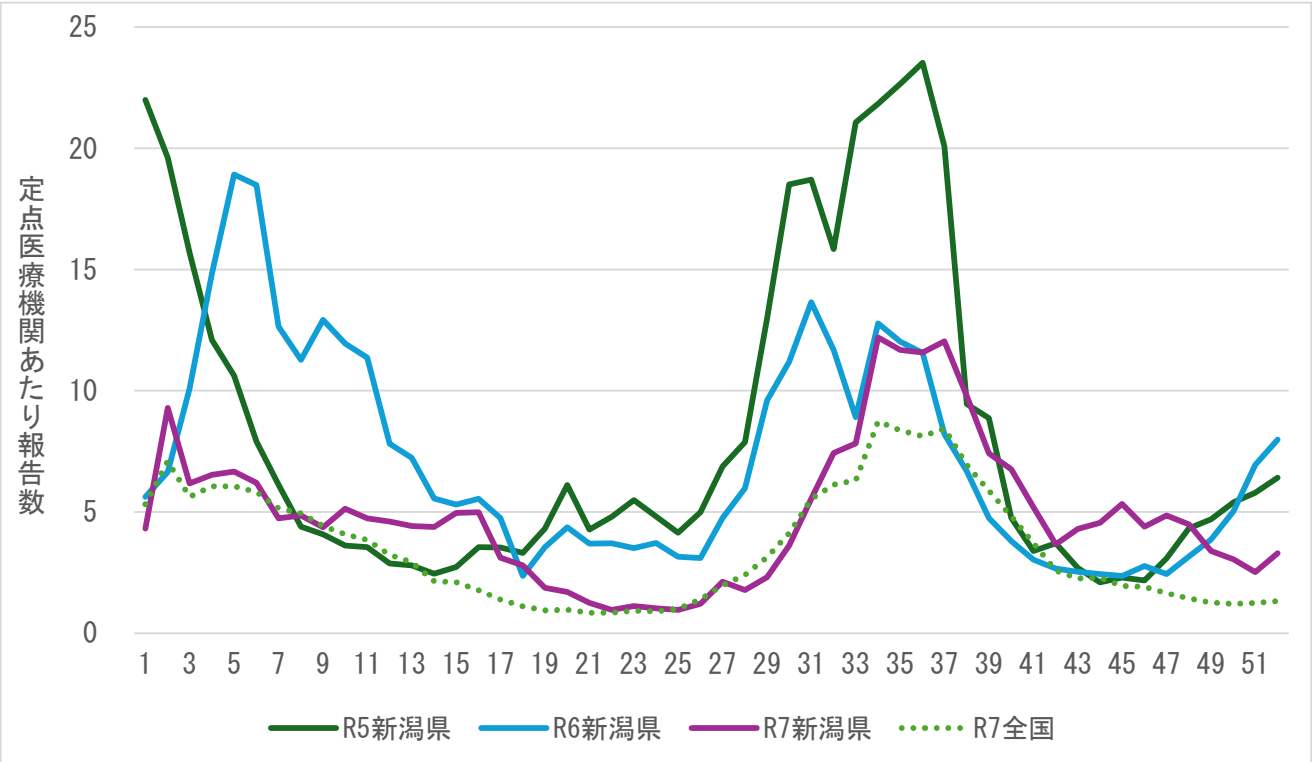
●定点把握感染症

（1）インフルエンザ



令和5年では第11週で、令和6年では第17週でピークをそれぞれ迎えたが、令和7年における県の定点あたり報告数は、第2週及び第48週でピークを迎えている。

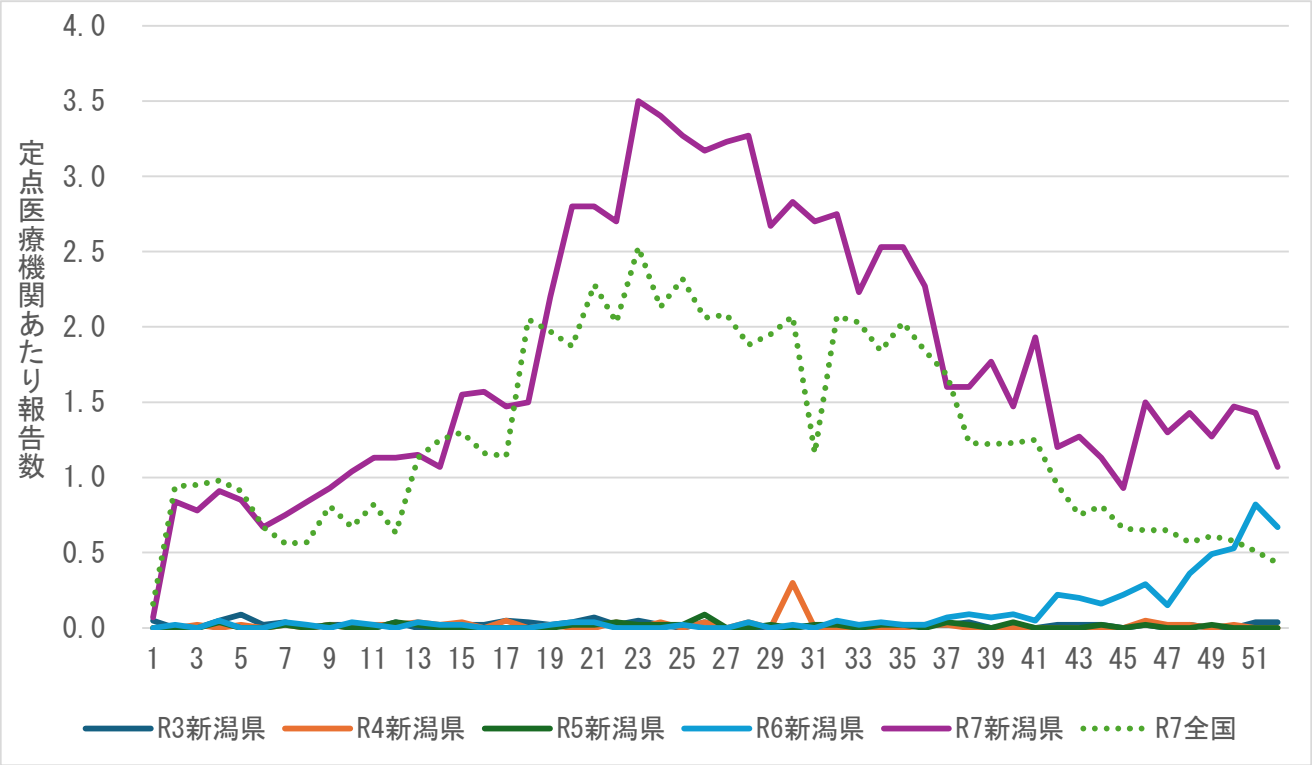
（2）新型コロナウイルス感染症



令和7年における県の定点あたり報告数は、第2週でピークを迎えた。

また、令和7年第16週から第25週までは減少傾向にあったが、第26週より増加し、第34週でピークとなった。

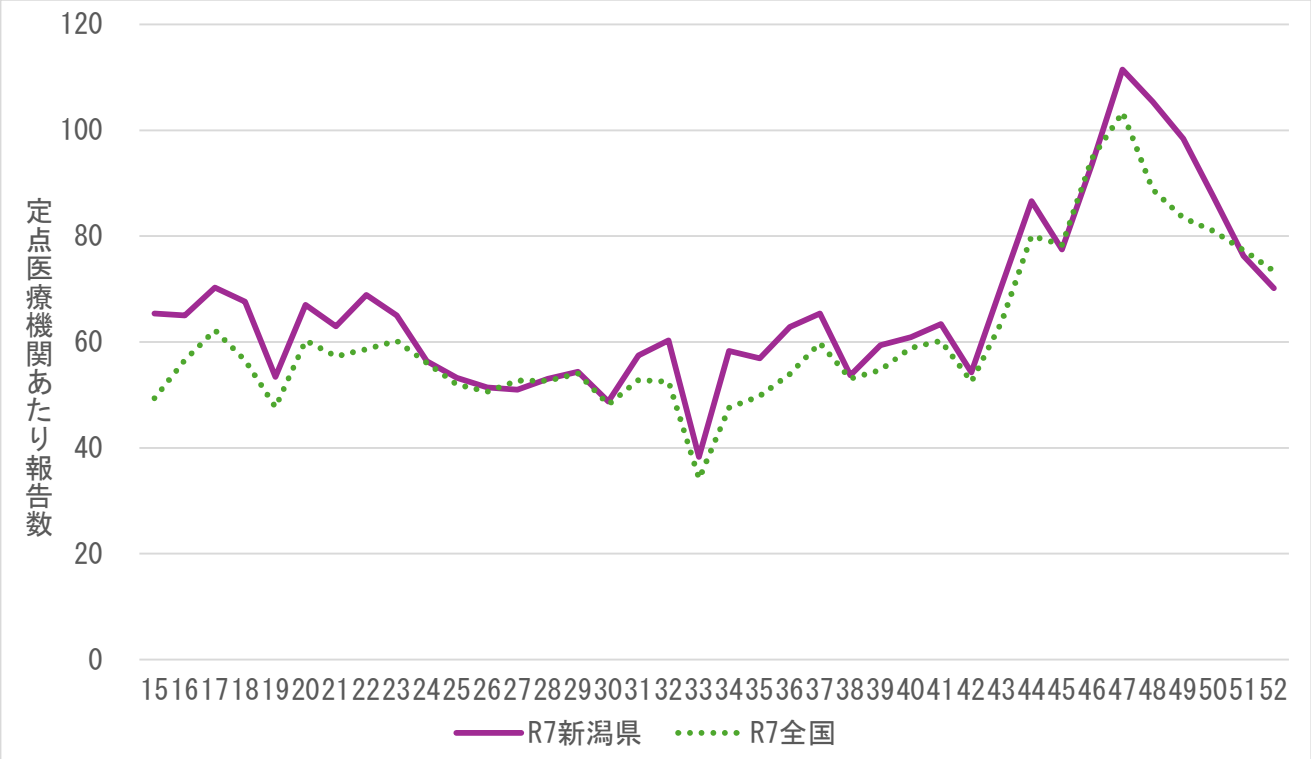
(3)伝染性紅斑



令和7年第14週より第23週において増加傾向となり、第23週には定点あたり報告数が3.50となり、県内に警報を発令した。

また全国平均と比較して本県における定点あたりの報告数は、全期間において全国平均を上回った。

(4)急性呼吸器感染症(ARI)



令和7年4月7日(第15週)より、急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスが始まった。

各週における定点あたりの報告数を全国と比較すると、多くの期間において全国より新潟県が多い状況にある。インフルエンザの患者がピークとなった第48週でARIもピークとなっている。

●性感染症（各年における累計報告数）

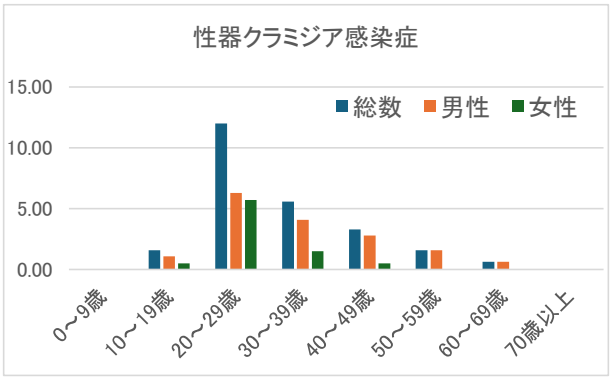
感染症名			令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
性器クラミジア感染症	新潟県	報告数	304	329	369	398	345
		定点当たり	20.27	21.93	24.60	26.53	24.64
	全国	報告数	30,003	30,136	31,270	29,806	−
		定点当たり	30.52	30.66	31.78	30.38	−
性器ヘルペスウイルス感染症	新潟県	報告数	71	92	94	90	114
		定点当たり	4.73	6.13	6.27	6.00	8.14
	全国	報告数	8,981	8,705	9,469	10,010	−
		定点当たり	9.14	8.86	9.62	10.20	−
尖圭コンジローマ	新潟県	報告数	49	58	75	91	54
		定点当たり	3.27	3.87	5.00	6.07	3.86
	全国	報告数	5,602	5,979	6,621	6,387	−
		定点当たり	5.70	6.08	6.73	6.51	−
淋菌感染症	新潟県	報告数	92	105	102	113	91
		定点当たり	6.13	7.00	6.80	7.53	6.50
	全国	報告数	10,399	9,993	9,674	8,791	−
		定点当たり	10.58	10.17	9.83	8.96	−

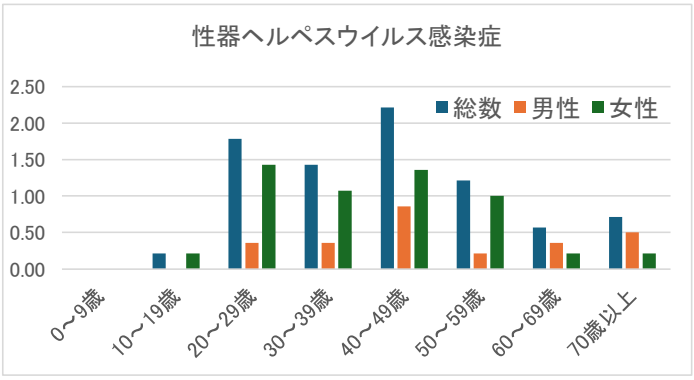
※全国での報告は集計中ため、令和7年での報告数は掲載していません。

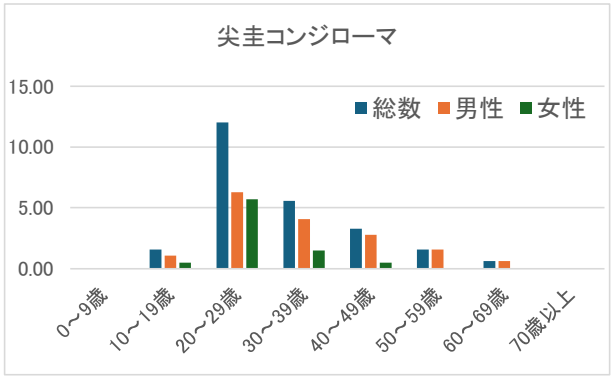
●性感染症（県における定点当たり報告数　性・年齢階級別、令和7年計）

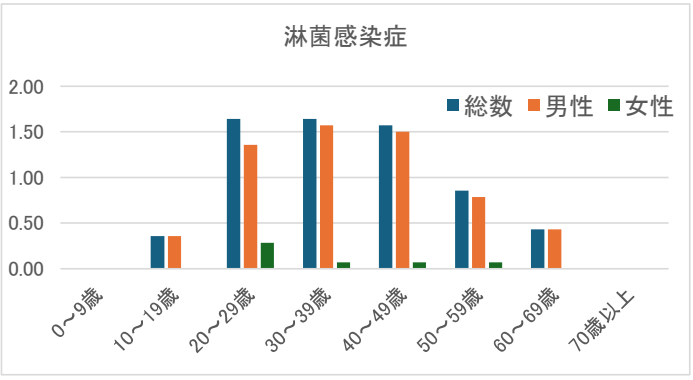
		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
性器クラミジア感染症	総数	0.00	1.57	12.00	5.57	3.29	1.57	0.64	0.00
	男性	0.00	1.07	6.29	4.07	2.79	1.57	0.64	0.00
	女性	0.00	0.50	5.71	1.50	0.50	0.00	0.00	0.00
性器ヘルペスウイルス感染症	総数	0.00	0.21	1.79	1.43	2.21	1.21	0.57	0.71
	男性	0.00	0.00	0.36	0.36	0.86	0.21	0.36	0.50
	女性	0.00	0.21	1.43	1.07	1.36	1.00	0.21	0.21
尖圭コンジローマ	総数	0.00	0.07	1.21	0.57	0.86	0.57	0.36	0.21
	男性	0.00	0.07	0.93	0.21	0.79	0.50	0.36	0.07
	女性	0.00	0.00	0.29	0.36	0.07	0.07	0.00	0.14
淋菌感染症	総数	0.00	0.36	1.64	1.64	1.57	0.86	0.43	0.00
	男性	0.00	0.36	1.36	1.57	1.50	0.79	0.43	0.00
	女性	0.00	0.00	0.29	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00

●県における定点当たり報告数　性・年齢階級別グラフ（令和7年計）









●性感染症の発生状況

・定点当たり報告数でみると、性器クラミジア感染症及び淋菌感染症は、全国平均並みであり、性器ヘルペスウイルス感染症及び尖圭コンジローマは全国平均より少ない傾向にある。

・性器クラミジア感染症及び尖圭コンジローマは、20～29歳の発生が最も多く、性器ヘルペスウイルス感染症は、40～49歳の発生が最も多い。

●新潟県サーベイランス委員会コメント

1．百日咳の年間報告数は過去数年と比較して著明に増加した。特に小児を中心とした地域内での伝播が示唆されることから、今後も定点サーベイランスによる早期探知と、医療機関・学校・保育施設との連携強化が重要である。また、定期予防接種の確実な実施と、追加接種の必要性についても啓発を継続する必要がある。

2．インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症は、複数回のピークを示し、季節性の変化がより複雑化した。また、令和7年4月から開始された急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスでは、県内の定点あたり報告数が全国平均を上回る期間が多く、地域特性を踏まえた呼吸器感染症対策の必要性が示唆された。今後はARIデータを活用した新興、再興感染症への早期警戒体制の構築が期待される。

3．性感染症については、若年～中年層を中心に一定の報告数が継続しており、引き続き注意が必要である。特に20～30歳代に多い傾向がみられることから、啓発活動や検査体制の充実など、予防と早期発見を両輪とした対策が求められる。

次回は令和9年2月頃発行予定です。

福祉保健部感染症対策・薬務課　感染症対策班
電話025-280-5200 （内線2594）